

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

業所番号	1173201144		
法人名	特定非営利活動法人 さくら・さくら		
業所名	グループホーム さくら・さくら		
所在地	埼玉県比企郡ときがわ町大字玉川251番地		
評価作成日	平成25年1月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=1173201144-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの利用者の思いを大切にしている。
地域のイベントに積極的に参加する。
会話を楽しむ生活を送っていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は豊かな自然に恵まれ、小規模多機能の事業所が併設され、行事やスタッフの交流等、協力しながら運営されている。スタッフは地域密着型サービスであることを十分に理解し、一人ひとりの利用者の生活の継続性を大切に考え、個々の有する能力を引き出す為に、日々努力をしながら介護にあたっている。スタッフは常に笑顔で入居者に接し、会話の中でも入居者の笑い声が聞かれ、明るい雰囲気になっている。1ユニットである利点を生かし、入居者の希望や、天候をみての外出等、柔軟な対応がなされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内に掲示され、理念に沿う介護への努力をしている。	「その人らしい」「安心のある」「支え合い」の暮らしという理念があるが、職員は常に個々の利用者に安心のある介護を目指し、話し合いをしており、日々の生活場面で振り返りしながら、理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや行事には積極的に参加している。	自治会に参加し、地域の防災訓練、行事等に利用者も参加して交流を図っている。近隣には良く散歩に出掛け、利用者が摘んできた菜っ葉を近隣の方におすそ分けすることもあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特におこなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族様の代表者、地域の委員さんとの意見交換や現状報告をしている。	併設事業所と合同で行い、地区の役員も参加し、年ごとに人が変わるが、より多くの方に事業所を知ってもらおう機会と捉えている。事業所からの報告やお願いで終わる事が多く、参加者からの意見等あまり聞かれない。	評価結果への取組を報告することをきっかけに、地域住民との協力体制や、事業所への理解がより深まるような努力が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法の改正に伴う理解できない事や事業所の現状などを相談したり話をしたりしている。	積極的に訪問し、困った事はすぐに相談でき、介護保険関係等についてもこまめに連絡をもらえる等、協力関係は出来ている。推進会議への参加はまだなく、今後参加に向けての働きかけを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は自由に出入りできる様になっている。夜間は安全面を考慮し、施錠している。	開設当初より拘束はしない介護をしている。玄関も施錠はしていない。利用者の状態を適切に把握することで、混乱や危険を回避するよう努力し、さりげない声がけで帰宅願望のある利用者等にも対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり実用的ではないので、活用できないと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族とで話し合いを行っている。日常生活の決まり事は分かりやすく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏祭りの行事に招待し、一緒に過ごし、ホームの様子等知っていただく機会を設けている。	毎月利用者の家族には、行事予定と利用者の様子を知らせる内容の「お便り」を送付している。コミュニケーションの機会を増やし、家族からの要望や意見にはその都度対応し、細かい事でも話をするよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングに於いて、今月の行事目標等を話し合い、意見、アイデアを出してもらって、反映している。	月2回ミーティングを行い、職員は積極的に意見を出している。職員から出た介護に関する意見を取り入れ、実践し、良い結果を得ている。意見が反映することは、職員のやる気に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	満足してもらえていないかも知れないが、努力はしている。総合的な福利厚生を行っている。(年に数回研修旅行や演劇等鑑賞会を行っている。)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、事例検討会及び勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業の会の理事を務め、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を取り除いて安心していただくように、聞き取り、声掛けをしてきている。お声を掛けてレクリエーション等に参加していただき、コミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの様子を見学していただいて説明している。ホームページに明記しているように、利用者様のニーズに応じた説明をし、同意を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体の事等、どうしたいのかを聞き取り、要望、目標を明らかにし、支援介護を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることで、お掃除、食事の手伝い、洗濯物をたたんでいただく等で達成感、満足感を得てもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に外出の機会が持てる様支援している。毎月さくら便りとして、職員から一人一人の様子を書いた手紙や写真を送らせてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事にはほとんど参加している。その場で知人に会うこともあり、楽しみにしている利用者様もおられる。	地域行事参加時には、昔馴染みの方との交流も楽しみにしている。併設の小規模多機能デイサービスに通う近隣の顔なじみが、グループホームも訪問する等、近隣の馴染みの方との交流を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション(トランプ、カルタ、ボーリング、輪投げ等)を行っている。工作等は季節の行事に合わせたものを行っている。その人が出来ることに声掛けをして参加していただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了(退去)した後は、挨拶程度をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望に沿う様にする。 (又、家族と相談する。)	利用者の希望には可能な限り沿うよう努力し、希望に応じて当日急にドライブに出かける事もある。若い職員には話易いようで、意見や要望が出やすく、日々の会話の中から思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き取りをして、暮らし易い様に努めている。畑、庭の作業等好きにやっていたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行って、日々体調の管理をやっており、申し送りにて職員の共通認識にしている。(日誌、日報)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者と家族で話し合っ、方向性を決めている。それを月2回のミーティングで打ち合わせ、具体的な支援を行っている。	家族から要望や意見が出る事は少ないが、小さな希望でも生かすようにし、外出支援等も行っている。職員から小さな事でも気づきを報告してもらい、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、日報に特変などを記入し、申し送り等を行う。ミーティングで支援介護の内容を明記している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに病院通院、受診、買い物等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけの支援を心掛けている。心身の力の発揮まではなかなか難しいが、地域の行事に参加し、楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週主治医の往診をお願いしている。本人の体調は常に把握し、主治医に連絡して支援している。	殆どの方が訪問診療医にかかっているが、希望の医療機関への受診については、家族の協力も得ながら、通院支援をしている。家族が同行出来ない場合は、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週利用者様の健康状態を伝え、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時にホーム管理者が今後の対応を聞き、ホームでの生活が適切に出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りまでのことは、事業所として出来る事と出来ない事をご家族様と相談しながら取り組んでいる。	終末期の看取りはしていないが、段階を追って、その都度相談しながら対応している。家族の要望には可能な限り対応し、協力医療機関と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従って訓練を行っている。又、定期的に消防職員から救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに従って訓練を行っている。火災、地震対策として、消防署職員に、年2回指導、消火訓練を受けている。	地域の防災訓練に参加している。小規模多機能と共同で、消防署の協力を得て、夜間を想定した火災や地震の避難訓練も実施している。地域住民の参加、協力体制はまだ取れず、検討中である。	運営推進会議等での声掛けを利用しながら、消防所立ち合いの訓練の機会に、地域住民に参加を呼びかけ、協力体制がとれるよう努力することが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉使い等も日々実践している。	日々の言葉使いについては、職員同士も声をかけあい、その場で注意し合っている。個々の利用者を尊重し、お願いや依頼するような声かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の思いを引き出せる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて対話、行動ができています、と思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフの声掛けや更衣支援で実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方にも、職員と一緒に食事の準備や片付けに積極的に参加してもらっている。	1週間に1回メニューも調理も利用者と一緒に作る機会を作っている。オープンなキッチンからは調理の香りが漂い、職員も一緒に食卓を囲み、楽しい会話をしながら食事を楽しんでいる。食後の片づけは入居者も積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の方にカロリー計算等を行ってもらい、バランス調整している。入居者の方の能力に合わせ、キザミ等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週一回、歯科医による口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、時間、表情なども見て、介助している。	羞恥心や不安に対する配慮をしながら、個々の排泄パターンやサインを見逃さないようにし、小まめに声掛けし、排泄誘導することで、トイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は栄養士から学び、工夫している。又、体操などで予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日分けし、体調に問題無ければ、週3回入浴できる様にしている。シャワー浴なども取り入れ、支援している。	曜日を分けて週3回入浴している。足元の不安定な利用者にはシャワーチェアを利用している。夏場はシャワー浴をするなど、個々の希望に沿うよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔を保てる様に洗濯等をして、温度調節なども取り入れ、安心して眠れる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ間で情報を共有し、用法や用量の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を活かし、レクリエーションなどを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの地域の行事やイベントなどに参加している。天気の良い日は散歩に出かける。	近隣の方は散歩を兼ねて自宅まで歩いて出掛けたり、季節の草花を摘みに行く等、日常的に外出支援を行っている。近隣のスーパーマーケットに買い物へ出かける等も行っている。外出の際のボランティア等のサポートは無く、今後については検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、管理している。ホームで衛生品等必要になった時に、そこから支払っていただく。判断力がある方は希望により、買い物を出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には、その支援をしている。自由に電話出来る物(公衆電話)は無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、玄関はお正月からクリスマスまで、利用者様と飾り付けを行っている。	開口部が大きく、陽が降り注ぐダイニングで、ゆったりとくつろぎ、個々のお気に入りの場所で過ごしている。館内の飾りつけは、職員と一緒に楽しんで作成している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室から出ると、自然にリビングに行き、集まるようになっている。何をされているか一目でわかり、食事の支度をしている場所がリビングと同じ空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳か洋間かを入居の時に聞いて、本人の望み通りにする。好きなものを持ち込んでいる。仏壇等も置いている。	居室は希望で畳か洋間か選べ、自分の家具やお気に入りの写真を飾り、生活している。自分で清掃できる方はしながら、清潔で気持ち良い環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の居室になっていて、入り口は引き戸で車椅子が出入り出来る。空調、ベッド(電動)設備有る。読書したい方は何十冊も居室に置き、好きな時に読書されている。ラジオ等を聴いている方もいる。		

(別紙3(2))

事業所名 グループホーム さくら・さくら

目標達成計画

作成日: 平成 25年 3月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		継続して運営推進会議をお願いしたいが、地区役員の間だけで交代して欲しい、と申し出がある。事業所の様子を他の方々にも知ってもらった方がよいのではないか、との考えもある。	長期にわたり委員を引き受けて下さり、近隣の方々の忠告や意見を伝えてもらいたい。	地区の役員経験者だけでなく、その他の地域の方々の参加をお願いしてみる。	1ヶ月
2		職員を育てる取り組みとして、月1回の内部研修を実施しているが、外部の研修に参加する環境が出来ていない。	スタッフの力量に合った研修を受講できる様な条件を整備する。	近い所での研修の機会が少なく、遠い所へはなかなか参加出来ないが、短時間の研修から進めてみる。	12ヶ月
3		同業所との交流を通じた向上が望ましいが、どうしても排他的になり、交流の機会を設けづらい。	近くと同業者とは本音で話せないので、少し離れた地区の事業所への見学などを行う。	知り合いになった事業所訪問をお願いし、スタッフが参加したくなる様な条件を整えて行く。	12ヶ月
4		災害対策で自事業所のみでの訓練は行われているが、地域住民への声掛けや参加は行われていない。	地域の方々に、事業所の消防訓練に参加してもらう。	個人宅で消防署員の指導が受けられる機会は少ないとのアドバイスを受け、年2回ではあるが、積極的に声掛けをして行く。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。